3-3 大雨時に取るべき行動を知りましょう

洪水ハザードマップの地図上での着色は、想定される最大の浸水深を示しています。あなたがお住まいの場所の着色を確認し、避難の必要性を確認しましょう。

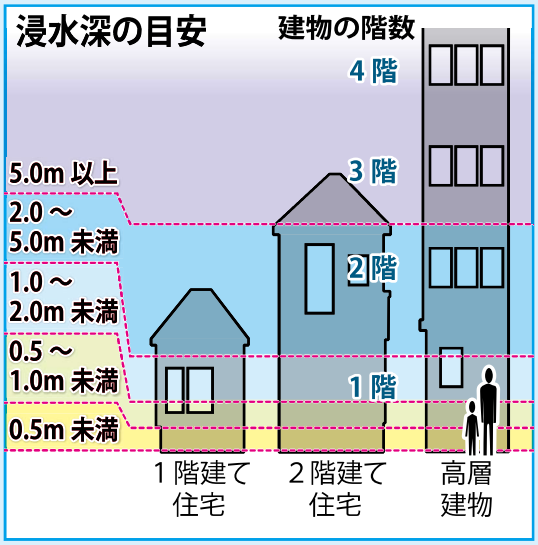
自宅のある場所の浸水深は？　お住まいの建物の階数と居住階数は？

階建て　階

浸水深＼建物階数	1階建て（戸建て住宅）	2階建て（戸建て住宅・アパートなど）		3階建て（戸建て住宅・アパートなど）		4階建て以上（マンションなど）	
3階部分までの浸水 5.0m以上	1階	1-2階		1-3階		4階以上	
	C	C		C		A	
2階軒先までの浸水 2.0～5.0m未満	1階	1-2階		3階	1-2階	3階以上	1-2階
	C	C		A	B	A	B
1階部分の床上浸水 1.0～2.0m未満 0.5～1.0m未満	1階	2階	1階	2-3階	1階	2階以上	1階
	C	A	B	A	B	A	B
床下浸水 0.5m未満	A	A		A		A	

※表中の階数は、居住階数です。

あなたがお住まいの建物の階数と、自宅のある場所の着色を確認しましょう。



A…むやみな移動はかえって危険。自宅で浸水対策や情報収集に努める。

B…居住階は浸水するため、浸水しない階層への垂直避難を考えておく。

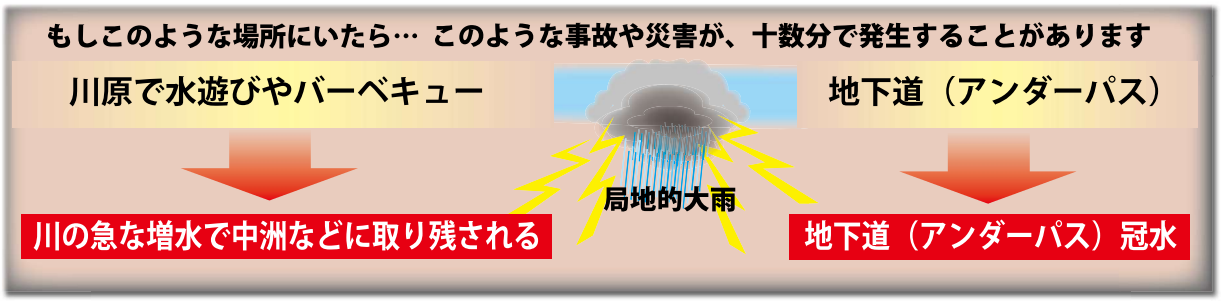
C…建物全体が水没する可能性があるため、早めに安全な場所へ避難することを考えておく。

局地的大雨に注意しましょう

局地的大雨は、積乱雲（雷雲）により急に強い雨が降り、降った雨が低い場所へ一気に流れ込みます。このため、総雨量が少なくても、十数分の降雨で甚大な被害が発生することがあります。

対　策①

局地的大雨への対策は、どのような場所でどのような事故や災害が発生するのか、あらかじめ被害をイメージしておくことが重要です。



対　策②

局地的大雨から身を守るためには、最新の気象情報を確認することが大切です。局地的大雨になりやすい気象情報かどうか、警報や注意報は発表されていないか、雨雲が近づいてこないかなどを確認するとともに、周囲の状況の変化に注意を払い、天気の急変に備えることが必要です。